

基調講演要旨

太古の昔から牧畜・遊牧の民モンゴル人は、賢明な人として物事や現象の本質を認識し、事実に基づいた現実的な知識を身につけ、それを使って世界や私たちの行動の意味を理解しよう努めてきた。その際、「自然」という書物を常に読み、自らの価値観を形成してきた。私たちが考える価値とは、個人と大衆を魅了し、時を越えて支配力を得てきた正義感や信念のことである。それは個人的なもの、政治的なものなど、さまざまなレベルに分類することができる。

報告の主題は、モンゴル人の政治的レベルの価値観すなわち独立し、主権を持つ国家を形成することによるその存在についての信念について取り上げることである。古代ギリシアの思想家アリストテレスの「すべての国家はある種の共同体である (Every state is a community of some kind) (Aristotle, 1946, p. 1252a) という主張がこの報告の理論的根拠になっており、この枠組みにおいて「国」と「国民」の意味が明らかにされる。その際、「…世界史は東から西へ向かって」発展したと述べ、国家構造が最初に出現した「中国と神権的なモンゴルから歴史は始まる」と書いたドイツの哲学者 G. W. F. ヘーゲル (1770-1834) の見解と、「1206年の春…テムジン(チンギス・ハーン)はオノン川上流にて大いなる燾の下でハーン位に就く儀礼を行い、チンギス・ハーンと称された。これがモンゴル帝国成立の瞬間であり、世界史誕生の瞬間であった」(Окада Хидэхиро, 2012, хууд. 15)。と記した日本の歴史学者・岡田英弘の見解を共有し、匈奴帝国から国が始まり、興亡してきた歴史をモンゴル人の政治的価値との関連で捉え、略述した。

国を国家形態として構成する主たる要素を、領土、人民、主権、政治制度という4つの要素として捉え、歴史資料において「自発的に国となり」、その完全性が形成され、国家形態を醸成するために：

- a) 「北方世界の領土を元の所有者が取り戻し、完全に残ることが確認されるべきである」、
- b) 「多くのモンゴル部族が一緒になること」換言すればわが民族を「すべてのモンゴル人の共同体の中核」として集める、
- c) 主権を回復し、「自分たちの権利を他人に行使させない」、
- d) これらすべてを達成するために、新たな「独立国家を樹立する」などといった原典資料に依拠しつつ、結論を述べた。モンゴル国立公文書館 X A-2, Д-1, X H-73. Б.1) (Магсаржав. Н, 2015, хуудсд. 16-28, 56-68)。

キーワード：政治的価値 (political balue)、国家(state)、共同体 (community)、国家性すなわち国家の形態 (statehood)